

学習歴の互換・累積加算等に関する基礎的検討

－基準となりうる要因の析出－

篠崎 明子
(八洲学園大学)

【要旨】

学習歴を社会で活用しやすくするためには、さまざまな学習歴を互換・累積加算したりまとめて認証したりすることが考えられるが、その際には何らかの基準の設定が必要である。本論文は、各種学習歴を特徴づける要因の分析を行って、そのような基準の手がかりを得ることを目的とするものである。各種学習歴を特徴づける要因の析出にあたっては、ボランティア活動、入学試験において「生涯学習パスポート」が活用されることへの期待をもつ公開講座受講者と企業内学習者の「生涯学習パスポート」に対する考え方を数量化Ⅲ類を用いて分析した。その結果をもとに、各種学習歴の互換・累積加算等の基準について検討し、複数の基準を用いてある互換・累積加算等を行おうとすると、違和感が大きくなることを指摘した。

1. 本論文の目的

本論文の目的は、各種学習歴を特徴づける要因の分析を行い、各種学習歴間における互換・累積加算等を行う際の基準について手がかりを得ることである。

本論文でいう学習歴とは、学習成果の評価や学習活動についての記録、その他の活動（職務経験やボランティア活動等）についての履歴等のことである¹。各種学習歴というときには、学校歴や講座歴、研修歴、入賞歴などを指すこととする。

また、本論文でいう各種学習歴を特徴づける要因とは、各種学習歴が持つ性質の強弱や差異などを指す。

「生涯学習パスポート」について若干の説明を加えると、生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす－生涯学習の成果を生かすための方策について－」において提言された「生涯学習パスポート」（以下、パスポートとする）は、学習についてのさまざまな記録（学習歴）を記入して蓄積し、まとめておくための記録帳である。パスポートには、学校歴、職業歴、資格などの他、さらに学校以外の場での学習の履歴や、地域活動歴なども記入することができる²とされており、一部の都道府県や市町村ではパスポートの作成・活用を図る取り組みが行われている。

学習成果の評価を社会で幅広く活用できるようにするために、前掲答申では「生涯学習関係機関・施設・団体等の様々な学習成果の評価・認定を互換、累積加算可能な学習成果の確認資料とする」² 学習成果の評価の認証が提案されている。拙稿「生涯学習成果の評価認証機能に関する一考察－学習歴の性質の観点から－」（『日本生涯教育学会年報』第24号、pp.169-183、2003）では、その認証の持つ機能について考察した。しかし、学習成果の評価を互換・累積加算してまとめていくための具体的な方策は現在のところ明らかにな

っていない。

また、パスポートには学習成果の評価の他に、職業歴や地域活動歴などの活動履歴も記載されるとされている³⁾。それらの記録もまた、学習者の有する知識や技術、経験を示す資料として活用することができるであろう。パスポートに記載される記録は、資格などのように個々の状態で資料として利用できるものもあるが、いくつかの記録を互換・累積加算したりまとめて認証したりして、学習者の学習成果を示す資料として活用しやすくすることも考えられるであろう。しかし、その点についても研究は進んでいない。

学習歴を互換・累積加算したりまとめたりするときには、どのような基準を設定するかということが問題になると思われる。例えば、異なる性質をもつ記録を単純に互換・累積加算等することには違和感があるであろう。したがって、学習歴を互換・累積加算等するときには、各種学習歴が性質上どのような特徴を持っているのかということについて検討しておく必要がある。

そこで、本論文では、各種学習歴間における互換・累積加算等を行う際の基準についての手がかりを得るために、各種学習歴を特徴づける要因および各種学習歴の特徴を明らかにする。

ところで、学習歴の特徴は見る者によって差異がある。学習者と人事担当者、高等教育機関エクステンション担当者のデータを用いた分析においては、それぞれのデータから抽出された各種学習歴を特徴づける要因が異なっていた⁴⁾。

また、先行研究である拙稿「就職・人事の場面から見た各種学習歴を特徴づける要因」(『八洲学園大学紀要』創刊号、pp.48-62、2005)では、就職や人事異動などにおいてパスポートが活用されることへの期待をもつ学習者や人事担当者について分析を行っているが、パスポートの活用が考えられているボランティア活動や進学などに関しては未だ検討されていない。

そこで、本論文では、ボランティア活動、入学試験で「生涯学習パスポート」が活用されることへの期待をもつ大学公開講座受講者と企業内学習者の「生涯学習パスポート」に対する考え方を手がかりとして、各種学習歴を特徴づける要因を明らかにすることにする。

2. 研究方法

各種学習歴を特徴づける要因を明らかにするため、生涯学習パスポートに関する調査研究委員会が2001年度に実施した「生涯学習パスポート」(生涯学習記録票)に関する調査研究⁵⁾の国内調査⁶⁾により収集されたデータを用い、数量化Ⅲ類によって分析する。

学習者の学習機会の違いによる各種学習歴を特徴づける要因の差異について検討するため、先の調査データの中から(A)大学公開講座受講者(以下、公開講座受講者とする)と(B)企業内学習者のデータを用いることにした。

また、①ボランティア・地域活動(以下、ボランティアとする)、②入学試験のそれぞれについて「パスポートが役立ってほしい」と回答したサンプルを抽出した。なぜなら、ボランティアや入学試験において「パスポートが役立ってほしい」と回答した学習者は、それらにおいて、パスポートに記載される各種学習歴がパスポートを通じて活用できることを期待していると考えられるからである。

今回は、次のようにサンプルを分類して分析した⁶⁾。

- A① 公開講座受講者で、ボランティアにパスポートが役立ってほしいと回答した者
 A② 公開講座受講者で、入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した者
 B① 企業内学習者で、ボランティアにパスポートが役立ってほしいと回答した者
 B② 企業内学習者で、入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した者

また、数量化Ⅲ類による分析にあたっては、生涯学習パスポートに記載欄を設けた方がよいと思う学習歴についてのデータを用いる。なぜなら、記載欄を設けた方がよいとされる学習歴は、その資料としての活用が期待されていると思われるからである”。

なお、「「生涯学習パスポート」(生涯学習記録票)に関する調査研究」の国内調査で挙げられた学習歴は次の通りである。

- | | |
|-------------------------------|------------|
| 1) 学歴 (学校歴) | (以下、学校歴) |
| 2) 各種講座を受講したこと (講座歴) | (以下、講座歴) |
| 3) 職場での職務経験・研修歴 | (以下、研修歴) |
| 4) 育児経験 | (以下、育児歴) |
| 5) 仕事経験 | (以下、職業歴) |
| 6) ボランティア活動歴・地域活動歴 | (以下、地域活動歴) |
| 7) スポーツ、芸術・芸能などの大会・コンクール入賞歴 | (以下、入賞歴) |
| 8) スポーツ、芸術・芸能などの大会・コンクールへの参加歴 | (以下、大会参加歴) |
| 9) 各種資格・免状・免許など | (以下、資格等) |
| 10) その他 | |

ただし「10) その他」は内容を確定できないため、分析の際には除外する。

3. 分析の結果—各種学習歴を特徴づける要因

9つの学習歴を特徴づける要因を明らかにするために、先に抽出した4種のサンプルのデータを数量化Ⅲ類により分析した。ここでは、固有値が比較的高い第1軸および第2軸について、各学習歴の変数スコアを見ていくことにする”。

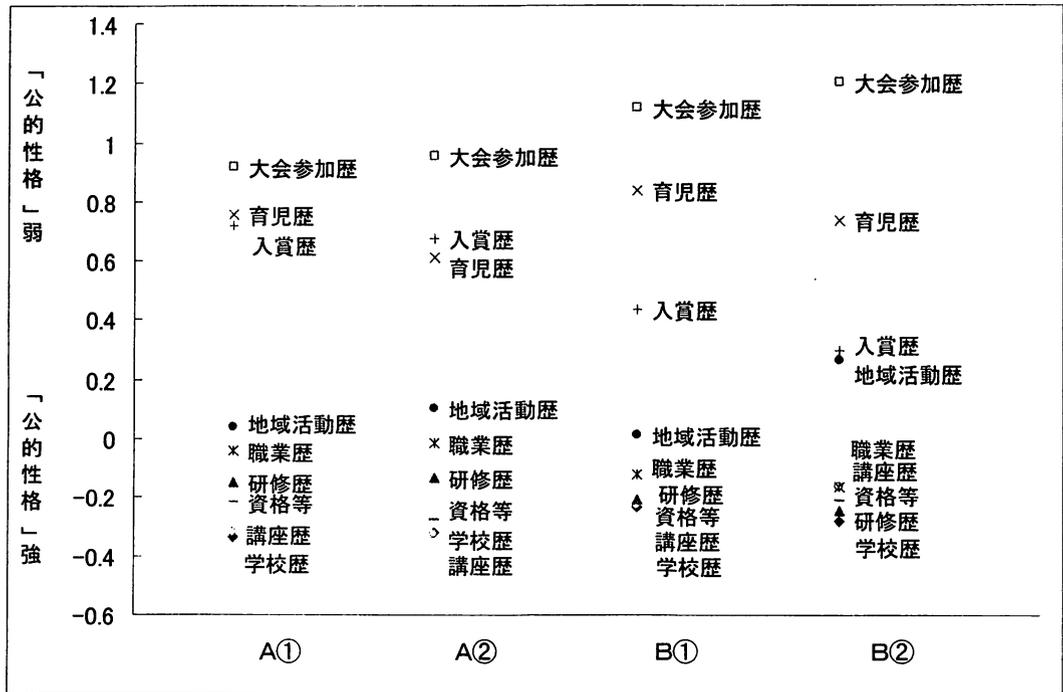
(1) 第1軸：「公的性格」軸

第1軸について得られた変数スコア”を図示したのが第1図である。第1図では、縦軸は変数スコアを表している(第2図も同様である)。

第1軸について4つの結果を比較すると、わずかな違いはあるものの、基本的には大会参加歴や育児歴、入賞歴が一方の極にあり、もう一方の極には学校歴や研修歴、職業歴などが並んでいる。そこで、この第1軸は、先行研究と同様に学習歴が広く社会で認められているかどうかを示す軸であると考え、「公的性格」軸とした。つまり、変数スコアの値が低いほど公的性格が強く、その学習歴が広く社会で認められていることを表す。

学習機会(A・B)によって育児歴や入賞歴と他の学習歴との相対的な位置関係が違っているが、軸の名称を異ならせるほどの違いとは言えないであろう。また、ボランティア・入学試験(①・②)について見ても若干の差異があるが、それについても軸の名称を異ならせるほどのものではないと考えられる。

第1図 変数スコア(第1軸「公的性格」軸)



なお、学習機会（A・B）ごとに、各種学習歴の相対的な位置関係を見ると、入賞歴の位置に違いが見られる。公開講座受講者（A）における結果では、入賞歴は育児歴や大会参加歴と近い位置にある。一方、企業内学習者（B）の分析結果では入賞歴の位置は中央寄りになり、特に入学試験（②）の場合には地域活動歴に近づいている。また、入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者（B②）においてのみ、地域活動歴が職業歴や研修歴、資格等、講座歴、学校歴から離れた位置にある。

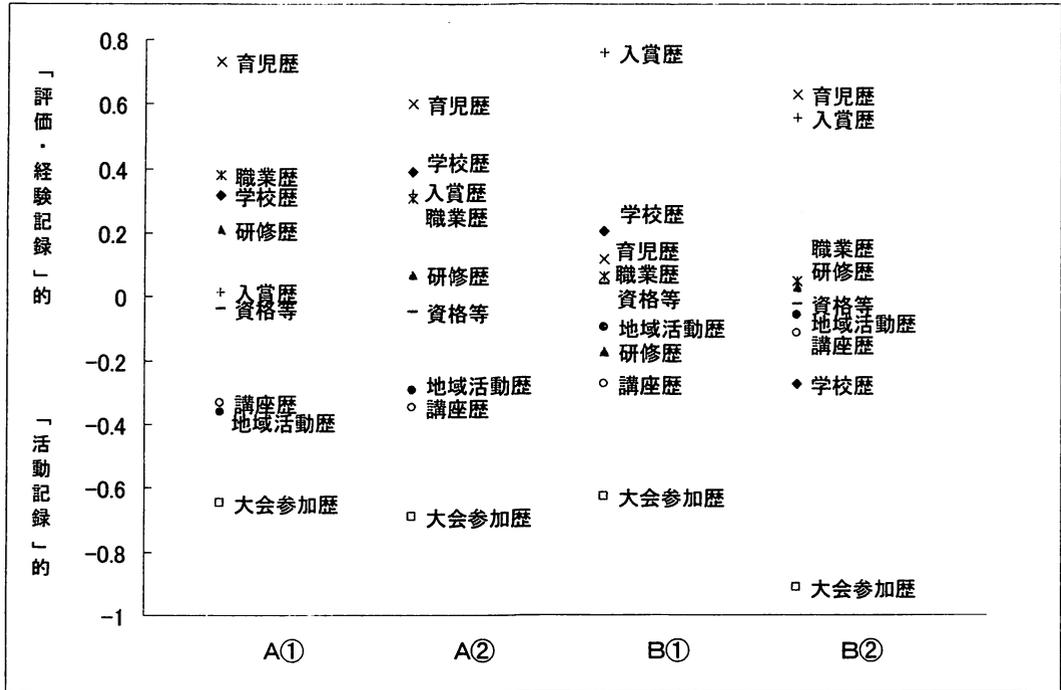
（2）第2軸：「評価・経験記録－活動記録」軸

第2軸の変数スコア¹⁰について、A②・B②の数値の正負を逆転させ、図示したものが第2図である。

一方の極には育児歴、入賞歴、職業歴などが並んでおり、もう一方の極には大会参加歴、講座歴、地域活動歴が並んでいる。この軸は、学習歴に含まれる記録が、学習成果の評価や経験についての記録であるか、活動についての記録であるかを弁別する軸であると考えられるので、「評価・経験記録－活動記録」軸とした。第2図でいえば、スコアの低い学習歴ほど評価や経験の記録を多く含み、スコアの低い学習歴ほど活動に関する記録を多く含んでいる。

なお、入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者（B②）では他の結果に比して学校歴が大会参加歴と近い位置にあったり、ボランティアにパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者（B①）では育児歴が職業歴に近づいていたりするなど、いくつかの学習歴の位置が相対的に異なっている。これは各グループで学習歴のとら

第2図 変数スコア(第2軸「評価・経験記録—活動記録」軸)



※A②・B②は変数スコアの値の正負を逆転させた数値を用いて図示している。

え方が異なるためであると考えられるが、軸の名称を異ならせるほどのものではなかった。

公開講座受講者(A)と企業内学習者(B)とを比較すると、後者では学校歴と入賞歴の位置が離れている。とくに入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者(B②)では学校歴が「活動記録」側に寄り、講座歴や大会参加歴に近づいている。これは、公開講座受講者(A)が学校歴を評価や経験の記録としての性質が強いものとして捉えているのに対して、入学試験にパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者(B②)は学校歴を活動記録としての性質が強いものと捉えていることを表しているように思われる。

4. まとめと今後の課題

本論文では、各種学習歴を特徴づける要因を抽出するために、ボランティア活動、入学試験での「生涯学習パスポート」が活用されることへの期待をもつ公開講座受講者と企業内学習者の「生涯学習パスポート」に対する考え方を数量化Ⅲ類によって分析した。その結果、A①～B②のいずれにおいても、第1軸で「公的性格」軸¹¹、第2軸で「評価・経験記録—活動記録」軸¹²が得られた。これらの軸は、学習者から見た学習歴を特徴づける要因の一部であると考えられる。なお、学習歴の一部の相対的位置が異なっていることがあったが、軸の名称を異ならせるほどのものではなかった。これらの軸によって示される性質の強弱・差異によって、各学習歴の特徴を示すことができる。

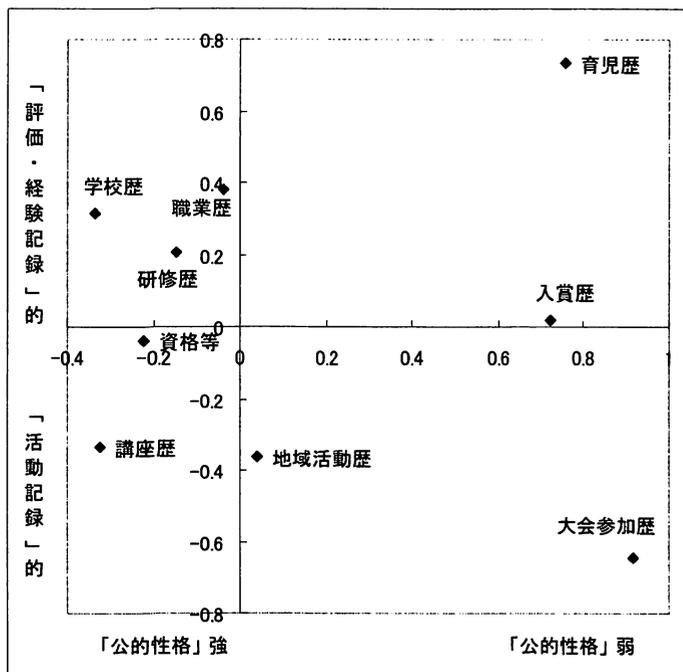
これらの要因を基準として、各種学習歴の互換・累積加算等を行うことが考えられるであろう。例えば、「公的性格」という要因から見ると、学校歴、講座歴、研修歴、職業歴、

資格等などは似ており、互換・累積加算等を行う際にもあまり違和感はないであろうが、学校歴と大会参加歴など、公的性格の強いものと弱いものとを合わせることは少々違和感があるように思われる。同様に「評価・経験記録－活動記録」という面から見ると、講座歴と地域活動歴などの間の互換・累積加算等についてはあまり問題が無いように思われるが、入賞歴と大会参加歴など、評価・経験の記録という性質が強い学習歴と活動記録の性質が強いそれとを互換・累積加算等するには問題があるように思われる。それらを違和感なく互換・累積加算等させたい場合には、それらの間に類似性を見いだすことのできる何らかの他の観点が必要になるであろう。

ところで、軸の名称が異なるほどではなかったものの、各種学習歴の相対的な位置に若干の差異が見られた。例えば、「評価・経験記録－活動記録」の面から見ると、入学試験でパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者（B②）の結果では、育児歴と職業歴とは離れた位置にあったが、ボランティアでパスポートが役立ってほしいと回答した企業内学習者（B①）では育児歴が職業歴に近づいていた。近い性質を持つ学習歴同士は互換・累積加算等に違和感を感じにくい、という先の考え方を適用すれば、前者では育児歴と職業歴とを互換・累積加算等することは考えにくいということになる。しかし、ボランティア活動で記録を活用するような場合には、育児歴と職業歴との記録をまとめることについて理解を得られやすいであろう。

なお、互換・累積加算等をする際、同時に複数の基準を適用することも考えられる。ボランティアでパスポートが役立ってほしいと回答した公開講座受講者（A①）のデータをもとに「公的性格」（第1軸）と「評価・経験記録－活動記録」（第2軸）の二つの観点から各種学習歴を見ると、第3図のようになる。横軸が「公的性格」軸、縦軸が「評価・経験記録－活動記録」軸である。この場合、資格等と研修歴は近い位置にあるが、資格等と入賞歴は離れた位置にある。つまり、「公的性格」と「評価・経験記録－活動記録」の二つの観点を併せて見ると研修歴と資格等は似ているが、資格等と入賞歴とはあまり似ていないということになる。この場合、資格等と入賞歴とを互換・累積加算等するには、それらの位置を引き離す要因である公的性格については不問として「評価・経験記録－活動記録」のみを観点とするか、あるいは他の観

第3図 変数スコア(A①の第1軸・第2軸)



点を導入することが必要になる。互換・累積加算等の際にはどのような観点を基準として採用するかが重要となるであろう。

今後の課題としては、本論文や先行研究において明らかになった学習歴の性質・特徴を手がかりとして、学習成果の評価や活動記録等を社会的に活用しやすくまとめるための具体的な仕組みを開発することが挙げられる。

注記・引用文献

- *1 学習歴の中に職業歴やボランティア・地域活動などの履歴は含まれないと考えることもできるが、ここではそれらをも含めておくことにする。
- *2 山本恒夫「生涯学習成果の評価・認証に関する研究の展開と課題」(『日本生涯教育学会年報』第20号、pp.29-39、1999) p.29
- *3 生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かすー生涯学習の成果を生かすための方策についてー」
- *4 拙稿「生涯学習成果の評価認証機能に関する一考察ー学習歴の性質の観点からー」(『日本生涯教育学会年報』第24号、pp.169-183、2003) および拙稿「就職・人事の場面から見た各種学習歴を特徴づける要因」(『八洲学園大学紀要』創刊号、pp.48-62、2005)を参照。
- *5 生涯学習パスポートに関する調査研究委員会『「生涯学習パスポート」(生涯学習記録票)に関する調査研究報告書』2002。調査の概要については末尾資料および各報告書を参照。当該調査研究は平成12～14年度に文部科学省の委嘱を受けて行われたものである。なお、筆者は調査研究協力者として本調査研究に参加し、データの使用について代表者の了解を得ている。
- *6 ①と②の両方について「パスポートが役立ってほしい」と回答することができるので、A①とA②の両方に含まれるサンプルもある。B①とB②についても同様である。それぞれの比率は第1表の通りである。

第1表 パスポートの有用性についての意見 (%)

	役立ってほしい	役立たなくてもよい	わからない	無記入	計
A①公開講座受講者・ボランティア	63.2	26.4	7.3	3.1	100.0
A②公開講座受講者・入学試験	42.2	35.3	17.0	5.5	100.0
B①企業内学習者・ボランティア	49.9	34.6	14.9	0.6	100.0
B②企業内学習者・入学試験	40.0	40.6	18.1	1.3	100.0

*7 パスポートに記載欄を設けた方がよいと思う学習歴についての比率は第2表の通りである。

第2表 パスポートに記載欄を設けた方がよいと思うもの

(%)

	学校歴	講座歴	研修歴	育児歴	職業歴	地域活動歴	入賞歴	大会参加歴	資格等
A①公開講座受講者・ボランティア	48.1	81.3	63.2	28.4	60.4	68.6	27.4	28.0	70.0
A②公開講座受講者・入学試験	50.0	83.0	68.2	31.5	59.2	63.7	30.1	29.5	77.1
B①企業内学習者・ボランティア	58.6	65.6	82.2	27.4	73.2	73.9	43.9	38.7	86.0
B②企業内学習者・入学試験	61.9	73.8	86.5	31.0	81.0	65.9	49.2	24.6	92.1

(複数回答)

*「その他」は省略した。

*A①・B①は「パスポートがボランティアに役立ってほしい」を母数とした数値である。

*A②・B②は「パスポートが入学試験に役立ってほしい」を母数とした数値である。

*8 固有値・寄与率は第3表の通りである。

第3表 固有値・寄与率

	A①		A②		B①		B②	
	固有値	寄与率	固有値	寄与率	固有値	寄与率	固有値	寄与率
第1軸	0.153	0.204	0.15	0.218	0.147	0.256	0.141	0.267
第2軸	0.129	0.172	0.117	0.169	0.089	0.156	0.096	0.182
第3軸	0.107	0.142	0.089	0.129	0.082	0.143	0.075	0.141
第4軸	0.085	0.113	0.084	0.121	0.071	0.124	0.067	0.127
第5軸	0.078	0.104	0.075	0.11	0.063	0.11	0.06	0.114
第6軸	0.075	0.1	0.062	0.09	0.055	0.095	0.044	0.083
第7軸	0.063	0.084	0.059	0.086	0.039	0.067	0.029	0.055
第8軸	0.061	0.081	0.053	0.076	0.028	0.049	0.016	0.031

*9 第1軸の変数スコアは第4表の通りである。

第4表 変数スコア(第1軸)

	A①	A②	B①	B②
学校歴	-0.335	-0.32	-0.236	-0.283
講座歴	-0.323	-0.324	-0.229	-0.165
研修歴	-0.147	-0.131	-0.211	-0.248
育児歴	0.757	0.614	0.838	0.737
職業歴	-0.04	-0.017	-0.125	-0.164
地域活動歴	0.038	0.102	0.012	0.264
入賞歴	0.721	0.675	0.433	0.297
大会参加歴	0.916	0.953	1.116	1.2
資格等	-0.22	-0.277	-0.226	-0.215

*10 第2軸の変数スコアは第5表の通りである。なお、グラフ(第2図)では、A②・B②の数値の正負を逆転させてある。

第5表 変数スコア(第2軸)

	A①	A②	B①	B②
学校歴	0.316	-0.391	0.206	0.275
講座歴	-0.333	0.345	-0.272	0.115
研修歴	0.209	-0.07	-0.173	-0.032
育児歴	0.734	-0.6	0.12	-0.633
職業歴	0.38	-0.307	0.064	-0.048
地域活動歴	-0.363	0.292	-0.094	0.057
入賞歴	0.018	-0.321	0.762	-0.559
大会参加歴	-0.645	0.688	-0.627	0.913
資格等	-0.037	0.046	0.04	0.023

- *11 先行研究においても、第1軸には必ず「公的性格」軸が表れている（前掲「生涯学習成果の評価認証機能に関する一考察—学習歴の性質の観点から—」および前掲「就職・人事の場面から見た各種学習歴を特徴づける要因」を参照）。
- *12 先行研究において第2軸に「評価・経験記録—活動記録」軸が表れたのは、就職・人事の場面においてパスポートが役立ってほしい・活用したいと回答した企業内学習者および自治体人事担当者の場合であった。同じ場面について「パスポートが役立ってほしい」と回答した企業人事担当者では第3軸、同じく専門学校生では第5軸、県民カレッジ等利用者では第4軸に表れていた（前掲「就職・人事の場面から見た各種学習歴を特徴づける要因」を参照）。

【資料】調査の概要

■調査期間：平成13年10月～12月

■調査対象と抽出法、配付・回収法

・大学公開講座受講者

（財）日本生涯学習総合研究所の公開講座に関する実態調査の回答校の打ち、公開講座実施大学から17校を抽出。大学のエクステンション、公開講座担当窓口を通じ調査票を配付、回収（一部は郵送で回収）。

・企業内学習者

平成12年9月30日発行「会社四季報CD-ROM」より東証1部上場企業1431社から33業種480企業を、「会社四季報」の業種分類に従い、業種別企業数に応じて比例配分し、無作為抽出。企業の人事、教育担当窓口を通じて調査票を配付。回収は郵送法。

■回収結果

調査対象	配付数	有効回収数	有効回収率
大学公開講座受講者	2,000	796	39.8%
企業内学習者	2,400	315	13.1%

■大学公開講座受講者プロフィール

学校種別 (％)

大学	短大	その他	計
87.8	2.5	9.7	100.0

性別 (％)

男	女	無記入	計
42.3	52.4	5.3	100.0

年齢 (％)

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無記入	計
0.6	7.8	13.7	13.6	19.5	28.3	10.9	0.4	5.2	100.0

■企業内学習者プロフィール

性別 (％)

男	女	計
77.1	22.9	100.0

年齢 (％)

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
0	27.9	35.9	21.9	13.7	0.6	0	0	100.0

職種 (％)

管理	専門・技術	事務	営業	一般作業職	人材派遣	パート等	その他	計
24.1	14.3	54.3	5.1	0.6	1.0	0	0.6	100.0